

会報

第 56 回全国大会に向けて



岡山県高等学校教頭・副校長会会長
岡山大会運営委員長
秋葉 直之

7月27日、28日の2日間、倉敷市民会館及び倉敷公民館を会場として、第56回全国高等学校教頭・副校長会総会及び研究協議大会岡山大会を開催いたします。大会の統一主題は、「心豊かに、たくましく、未来を拓く人材の育成を目指して～よりよい社会づくりに参画する力を育てる高校教育の推進～」といたしました。グローバル化や情報化の進展をはじめ、社会情勢が急速にかつ大きく変化するなかで、自立した一人の人間としてたくましく生きる力、自他共に尊重し主体的に社会と関わる能力、世界に視野を広げ、よりよい社会づくりに参画する心を持つ人材の育成が求められています。

「心豊かに、たくましく、未来を拓く人材の育成」は、岡山県教育大綱等に示されている本県教育の基本目標であり、その実現を目指して、①魅力ある学校づくりの推進、②学びのチャレンジ精神の育成、③家庭と地域の教育力の向上、④規範意識と思いやりの心、健やかな身体の育成、⑤生涯学習環境の整備と文化・スポーツの振興を柱とした教育施策や具体的な取組が推進されています。本県には、公立全日制53校、公立定時制・通信制12校、私立全日制24校の高等学校がありますが、各校それぞれの特色を生かしながら、新しい時代を担う人材の育成を目指して教育活動に邁進しています。

私たち岡山県高等学校教頭・副校長会は、公立103名、私立34名の会員からなり、春秋年2回の総会・研究協議会をはじめとした諸活動を行っています。本会には、備前・備中・美作の3支部があり、支部ごとの例会・研修会も年2回程度行っています。また、各支部では調査研究の取組を行っており、その研究成果を岡山県高等学校教育研究会（高教研）学校運営部会の部会報に掲載し発表しています。

平成 29 年度

NO.97

全国高等学校教頭・副校長会

岡山大会では、本県が主管県として、管理運営研究（第1分科会）、高校教育研究（第2分科会）、生徒指導研究（第3分科会）の全分科会で研究発表を行います。いずれも前述の各支部によるアンケート等に基づいた調査研究の発表です。他の都道県と合わせて12本の研究発表があり、参加される先生方にとって、資質向上につながる有意義な研究協議大会になるものと思います。また、文部科学省の方々からいただきご講話や大原美術館名誉理事長大原謙一郎先生の「若者よ、深く、思索せよ 大原美術館の物語が語りかけること」と題するご講演などを予定しています。歓迎公演は岡山県立倉敷商業高等学校吹奏楽部によるマーチング演奏を行います。高校生らしい、若さと元気があふれる演奏をお楽しみください。

ところで、昨年5月には、今回教育懇談会を催す倉敷アイビースクエアを会場に「G7倉敷教育大臣会合」が開催されました。会合でまとめられた「倉敷宣言」は、I. 教育の果たすべき役割、II. 教えや学びの改善・向上策、III. 新たな国際協働を骨子とし、今後の教育の根幹となる理念を主要国が国際的に共有する画期的なものとなりました。岡山大会の会場は、倉敷が天領として栄えた江戸時代当時の面影が偲ばれる美観地区あるいはその間近にあります。各国の教育大臣も美観地区の散策や大原美術館の見学を楽しまれたとか。当地はまさに教育に関する会議を行うのに相応しい環境と雰囲気を持っているということでしょうか。歴史と文化の香り高いこの地で未来を担う人材の育成を目指して研究協議大会を開催できることは、主管する本県高等学校教頭・副校長会にとりましても、誠に意義深いものがあります。

最後になりましたが、参加者の皆様には、研究協議のみならず、「晴れの国」岡山ならではの自然や文化、歴史、食などを存分に楽しんでいただきたいと願っています。岡山県高等学校教頭・副校長会会員一同、心からお待ち申し上げます。（岡山県立西大寺高等学校 副校長）

第56回全国高等学校教頭・副校長会総会及び研究協議大会 開催要項

- 1 目的** 全国高等学校教頭・副校長の連携を図るとともに、高等学校教育の諸課題について研究協議を行い、時代の進展に即応する教頭・副校長としての資質の向上と高等学校教育の充実を図る。
- 2 主催** 全国高等学校教頭・副校長会
- 3 主管** 中国地区高等学校教頭・副校長会（主管県 岡山県）
- 4 後援** 文部科学省、岡山県教育委員会、倉敷市教育委員会、全国高等学校長協会
岡山県高等学校長協会、公益財団法人日本教育公務員弘済会岡山支部
- 5 期日** 平成29年7月26日（水）～28日（金）【初日（7月26日）は全国役員のみ】
- 6 日程**

期日・時間	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
7/26(水)					受付	全国研究部会	受付	講演	全国理事研究協議会	受付	全国常任理事情報交換会
	9:20		12:00		歓迎会	休憩	講演	会場準備	分科会	移動受付	教育懇談会
7/27(木)	受付	開会式 講話 総会	昼食	公演							
7/28(金)	受付	分科会			12:30 13:00 13:30		15:00 15:30		17:30 18:00		19:30
	9:00	9:30		11:30							

- 7 会場**

会議名	会場	住所	電話
全国研究部会 全国理事研究協議会 ----- 開会式、講話、総会、講演 第1・2分科会	倉敷市民会館	〒710-0054 倉敷市本町17-1	086-425-1515
第3分科会	倉敷公民館	〒710-0054 倉敷市本町2-21	086-423-2135
全国常任理事情報交換会 教育懇談会	倉敷アイビースクエア	〒710-0054 倉敷市本町7-2	086-422-0011

- 8 統一主題** 「心豊かに、たくましく、未来を拓く人材の育成を目指して」
～よりよい社会づくりに参画する力を育てる高校教育の推進～

- 9 講 話 文部科学省初等中等教育局（予定）
演題 「当面する教育課題について」（仮題）
- 10 講 演 大原美術館名誉理事長 大原謙一郎 氏
演題 「若者よ、深く、思索せよ 大原美術館の物語が語りかけること」
- 11 分 科 会 第 1 分科会
管理運営研究（教頭・副校長の職務内容と管理運営上の諸課題）
研究発表：北海道・近畿（和歌山）・中国（岡山）・九州（沖縄）
指導助言：文部科学省（予定）、岡山県立高等学校長
- 第 2 分科会
高校教育研究（高等学校の教育課程と学習指導に関する諸課題）
研究発表：東北（山形）・東京・北信越（長野）・中国（岡山）
指導助言：文部科学省（予定）、岡山県立高等学校長
- 第 3 分科会
生徒指導研究（生徒指導・進路指導・特別活動に関する諸課題）
研究発表：関東（栃木）・東海（三重）・中国（岡山）・四国（香川）
指導助言：文部科学省（予定）、岡山県立高等学校長
- 12 歓迎公演 岡山県立倉敷商業高等学校吹奏楽部によるマーチング
- 13 大会申込金 会員 1 人：8,000 円（参加費 4,000 円 資料代 4,000 円）
(7/27 (木) 夕刻の教育懇談会（会費 ¥4,000）の参加については任意ですが、奮ってご参加ください。)
- 14 大会参加 ※申込は原則としてインターネットで期日までにお願いいたします。
申込方法 申込締切：平成 29 年 7 月 7 日（金）
(1) 申込は、原則として個人でお願いします。
(2) 7 月 1 日以降は、大会に参加できない場合でも、資料代及び参加費の払い戻しはいたしません。その際、大会終了後に資料を送付します。
(3) 参加申込とともに資料代及び参加費等の納入をお願いします。
(4) 全国理事研究協議会（7 月 26 日）の案内は、別途全国事務局より申し上げますが、全国常任理事情報交換会の欠席連絡については、必ず本大会事務局へお願いします。

15 大会参加申込・宿泊等問い合わせ先

株式会社 JTB 西日本 MICE 事業部
「第 56 回全国高等学校教頭・副校長会総会及び研究協議大会」係
TEL 06-6252-5044 FAX 06-7657-8412
E メール : westec_op2@west.jtb.jp

16 大会に関する問い合わせ先

岡山大会運営委員会事務局
岡山県立倉敷商業高等学校 副校長 近藤隆志
〒 710-0824 岡山県倉敷市白楽町 545
TEL 086-422-5577 FAX 086-422-5579

岡山大会へのお誘い



会長 小芝 一臣

昨年度の第 55 回全国高等学校教頭・副校長会総会にて、会長にご推挙いただき、ありがとうございました。会長に就任して、改めてこの会の在り方を考えてみました。

ご存じのとおり教頭・副校長の役割は、学校教育法第 37 条で「教頭は、校長（副校长を置く小学校にあっては、校長及び副校长）を助け、校務を整理し、及び必要に応じて児童の教育をつかさどる。」と定められています。

私は、この「校長を助け」の部分に教頭・副校长として最も重要な役割があると思っています。各学校の校長は、自校の学校運営について最終的に決裁をしなければなりません。その決裁を判断する上で、最も頼りになるのが、教頭・副校长からの助言であり、情報提供です。校長に的確に助言したり、最適な情報を提供するためには、教頭・副校长同士で研究・研鑽し合うことと自県だけでなく他都道府県も含めて情報交換をすることが大切です。私はこの全国高等学校教頭・副校長会はそのような研修を積む場であってほしいと考えています。

教頭・副校长の仕事は、どの都道府県においても大変な激務です。先日、文部科学省から平成 28 年度の教員勤務実態調査の集計が公表されました。これによりますと、教員の学校内での勤務時間の 1 週間あたりの平均は、小学校教員で 57 時間 25 分、中学校教員で 63 時間 18 分となります。ご存じのように、小学校でも中学校でも公立学校の教員の勤務時間は週 38 時間 45 分と定められていますので、小学校では週に 19 時間以上、中学校では週に 24 時間以上の時間外労働が行われていると言うことになります。一般に月 80 時間超の時間外労働が「過労死ライン」と言われている中で、教員の多くがこのラインを上回っているのが学校の現状です。さらに、教員には、一律に給料に 4 パーセントの定率を乗じた額の教職調整額が支給されているため、時間外手当の支給がないのは周知

のとおりです。

我々教頭・副校长の学校内勤務時間の現状は、先の発表によれば教員に比べて小学校で約 6 時間多い 63 時間 34 分、中学校で約 20 分多い 63 時間 36 分となっています。「過労死ライン」からみると小学校で約 62%、中学校で約 58% の教頭・副校长が超えていることになります。

今回の調査結果は公立小中学校のものでしたので、我々が勤務する高等学校の現状を数字として出すことはできませんが、小中学校とほとんど変わらないと容易に想像ができます。

ある教員から「管理職になると肉体的にも精神的にも今以上に仕事が増える上に責任ばかり重くなる。少しぐらい管理職手当が付いても割に合わない。」と言われたことがあります。また、昨年度、ブロック大会に出席した際、ある県では管理職選考の受験者数が登用予定数に達せず再募集を行ったと聞きました。

各学校には、勤務時間の適正化だけでなく、学習指導要領の改訂や特別支援教育への取組、不祥事の根絶など、多くの課題が与えられています。これらの課題の解決を探る場として、また教頭・副校长の研究・研鑽の場として、さらに情報交換の場として、第 56 回全国高等学校教頭・副校长会総会及び研究協議大会（岡山大会）を活用していただけたらと思います。

本大会は、平成 29 年 7 月 26 日（水）から 7 月 28 日（金）の期間で、倉敷市民会館及び倉敷公民館を会場として開催されます。統一主題は、「心豊かに、たくましく、未来を拓く人材の育成を目指して～よりよい社会づくりに参画する力を育てる高校教育の推進～」です。秋葉直之岡山大会運営委員長をはじめ、主管の中国地区高等学校教頭・副校长会の皆様が、全国の会員のお越しを心よりお待ち申し上げております。

是非、皆様とお会いして、会員相互の研修と情報交換を図りたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

（千葉県立京葉高等学校 校長）



平成28年度の忘れ得ぬ記憶

会計監査

埼玉県高等学校等副校長・教頭会
前会長
高木 祐一

私は平成 28 年度埼玉県高等学校等副校長・教頭会会长を務めさせていただきました。同時に東京から近県であった御縁で、全国高等学校教頭・副校長会で会計監査に当たらせていただきました。

東京都からは多数の副校長先生が全国のために尽力してくださいました。全国会長をなさった千葉県の小芝一臣先生には及びませんが、埼玉県の代表として毎回、できるだけ協力をさせていただきました。

間近で役員や事務局の方々と接する機会を得て、平成 28 年度は特に全国大会が東京都で行われましたので、東京都の副校長先生の御苦労は想像以上のものを感じました。そのような中でも、全国大会運営委員長の加瀬きよ子先生をはじめ皆様がはつらつと会務をなさっていたことが印象に残りました。

本部役員会、全国総務部会、全国理事研究協議会、総会及び研究協議大会と、一つ一つが貴重な経験となりましたが、11 月 28 日の第 3 回全国理事研究協議会が一番有益な会議となりました。中教審教育課程部会から折しも「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」が出された直後でした。高大接続改革の流れを受けて、高等学校教育はどうなるか、大学入学者選抜がどうなるか、注目を集めているさなかで、高等学校としてその動向に敏感になっていました。当日の全国理事研究協議会には、文科省教育課程課長の合田哲雄様がお越しくださいり、1 時間に渡って「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」について講話を伺いました。研究協議会に参加する前から「審議のまとめ」について内容を承知していましたが、作成に携わった方から「審議のまとめ」の精神をお聞きしました。共通一次試験の時代に「現代社会」などで受験科目の扱いに変遷を生じた高校時代の体験を持つ合田様から、高大接



続の三本柱を一体的に改革しなければならないというお話を伺いました。大変、説得力があり、実現に向け高等学校の側も努力していかなければならないという意を強くしました。

平成 29 年度を迎え、文科省の「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」実施方針（案）が取りまとめられました。高等学校教育の当事者として、三本柱のうち、高等学校教育と大学入学者選抜の一体的改革という精神を忘れないで教育活動に当たることが重要であることを改めて感じています。

平成 28 年度は埼玉県高等学校等副校長・教頭会にとって、思い出に残る年となりました。関東地区高等学校教頭・副校長会研究協議会が埼玉県で開催されました。11 月 18 日に 1 都 7 県から 224 名の教頭先生、副校長先生が集まりました。この年の 12 月に出された中教審答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」では「主体的・対話的で深い学び」と表現されるに至ったアクティブ・ラーニングについても研究協議が行われました。私たちが育成を目指す資質・能力である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」及び「学びに向かう力・人間性等」について、関東地区高等学校教頭・副校長会研究協議会をはじめ平成 28 年度の諸会議で認識を深くしてきました。

文科省の動きを全国高等学校教頭・副校長会が的確にとらえ、各都道府県の高等学校教育に生かしていく様を 1 年間、リアルタイムで拝見しました。平成 28 年度という転換点に会計監査をさせていただいたから得られた経験だと振り返っています。この経験を高等学校教育の質

の向上に役立てていきたいと思います。
全国の皆様、1年間ありがとうございました。
(埼玉県立鳩ヶ谷高等学校 校長)



一年をふりかえる

総務副部長
神奈川県立学校副校長会 前会長
榎本 一朗

平成 28 年度神奈川県立学校副校長会の会長を務め、全国高等学校教頭・副校長会総務副部長の役職をお引き受けすることになりました。

この任務をすすめるにあたり東京市ヶ谷にお集まりくださる事務局及び全国の副校長、教頭先生方にいかに有益な時間と情報をスムーズに提供できるかを考えていたと思います。

平成 28 年度から神奈川県は 3 回目となる県立高校改革がスタートしました。改革の柱は「質の高い教育の充実」「学校経営力の向上」「県立高校の再編・統合」です。

質の高い教育の充実に関する重要な要素として、共生社会づくりに向けた「インクルーシブ教育の推進」と、社会のグローバル化に伴う「グローバル化に対応した先進的な教育の推進」があります。

神奈川のインクルーシブ教育実践推進校の取組は共生社会の実現に向け、全国に先駆けた本格的な取組となり、平成 30 年度に通級制度が高等学校に導入されることもあり、インクルーシブ教育は、すべての県立学校での教育活動として、高等学校と特別支援学校が連携をさらに深めていくことになります。

また、外国につながりのある生徒への教育機会の提供や学習支援、企業の国際化や日本の少子高齢化に伴う外国人労働者の増加など、これから社会を支える若い世代は、海外に行かなくとも、グローバル化の影響を大きく受けることになります。グローバル人材はすべての県立学校に関わる課題となっていくと考えられます。

国の教育振興基本計画や教育再生実行会議の相次ぐ提言により、高校教育のあり方が大きく変わる時代を迎えています。学校経営を支える副校長、教頭は国の動向やこれから取り組むべき課題、県内外の先進的な取り組みを実践している学校の情報の共有などにアンテナを張り、教頭・副校長会のネットワークを最大限に活用し、互いの経験と知恵と教育観の充実を図っていきたいものと考えています。

さて、『徒然草』を読んでいたところ次の一説に出会いました。

「天下のものの上手といへども、始めは不堪の聞えもあり、無下の瑕瑾もありき。されども、その人、道の捷正しく、これを重くして放埒せざれば、世の博士にて万人の師となる事、諸道変るべからず」

基本的な心掛けというのは、どの道、どの時代においても変わることはないのでしょうか。

全国の副校長、教頭職にある質の高い先生方とともに、ご協力を頂戴しながら会の取組を進めることができ、最も稽古を積ませていただいたのは私自身であったと皆様に感謝いたします。

(神奈川県立平塚農業高等学校初声分校
副校長)



平成29年度北海道高等学校教頭・副校長会総会・第1回研究協議会

玉井 篤

5月17日(水)、18日(木)の両日、ホテルライフォート札幌にて開催された。

第一日目は、午前中に理事研究協議会と運営担当者研究協議会を行い、午後の開会式では、大橋一夫副会長(有朋高等学校副校長)の開会の辞、渡邊秀一会長(札幌北高等学校副校長)挨拶の後、柴田達夫北海道教育委員会教育長(代理 小形秀雄北海道教育委員会教育指導監)、長岡豊彦札幌市教育委員会教育長(代理 引地秀美札幌市教育委員会学校教育部長)、川口淳北海道高等学校長協会会长(札幌南高等学校長)、小芝一臣全国高等学校教頭・副校長会会长の代理として事務局次長玉井篤各氏が挨拶・祝辞を述べた。さらに、家近昭彦前会長(北海道鷹栖高等学校長)より祝文が寄せられ出席者に配付・披露された。

続けて総会が行われ、報告事項4件(事業報告、定通部会事業、決算報告、会計監査報告)、協議事項4件(役員選出案、事業計画案、定通部会事業計画案、予算案)などについて報告、審議が行われいずれも承認された。

休憩を挟んだ後、全体会Ⅰでは、最初に小形秀雄教育指導監から、「教頭・副校長に望むこと」と題し、高等学校の現状と課題、教育改革の動向、教頭・副校長に必要とされる資質・能力、これからの中学校運営に向けて等についての講話を受けた。また、川口淳北海道高等学校校長会会长より「やりがい・働きがいを持つには」をテーマとして、教頭・副校長の役割とは、仕事をどのように進めるか、管理職の心構えは、学校が変わるには、等についての講話をいただいた。

全体会Ⅱでは、研究協議として、鈴木浩札幌月寒高等学校副校長より、「教頭・副校長の立ち位置—学校経営者の一員として—」と題した提言がなされた。主な内容としては、己の「教諭」との決別、対上司、対部下、危機管理、チーム管理職等であった。提言に対して北海道教育庁学校教育局高校教育課普通教育指導グループ

主査渡辺淳一氏から助言をいただいた。提言の中で、「迷ったら、それは生徒のためになるのか?」という基準で判断するということが印象的であった。

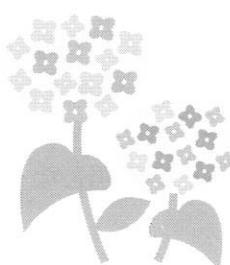
18:00より同ホテル内で、北海道教育庁学校教育局北村善春様、教育指導監小形秀雄様、学校教育局高校教育課長山本明敏様、新しい高校づくり推進室参事相馬哲也様、北海道高等学校協会会长川口淳様ほか、6名の北海道教育委員会各グループの主幹・主査の方々と330名を超える教頭・副校長が参加し教育懇談会が壮大かつ盛大に催された。「チーム教頭・副校長会」としての結束がいっそう高まつたと思われる。

第二日目は午前9時より、分科会が行われた。第一分科会(学校の管理運営に関する諸問題)では、北海道鹿追高等学校山内章裕教頭から「カリキュラム・マネジメント～研究開発学校の指定を受けた連携型中高一貫教育の取組～」、第二分科会(教育課程・学習指導に関する諸問題)では、北海道札幌旭丘高等学校川瀬雅之副校長より「札幌旭丘高校の『進学重視型単位制』について、現状からの検証」、第三分科会(生徒指導、進路指導、特別活動に関する諸問題)では、市立札幌大通高等学校熊谷修司教頭から「大通高校の支援事業を通して今後の定時制課程高校の課題を考察する」および北海道上磯高等学校浅井邦昭教頭による「コミュニケーション能力を伸ばす取組～支援が必要な生徒への対応～」の二本の研究発表があり、それぞれ質疑応答・協議・指導助言を通して、有意義な研究協議会であった。

第一分科会の研究発表は、今夏の岡山大会第一分科会で報告する予定である。

11:45より閉会式が行われ、二日間の全日程が終了した。

なお、第2回研究協議会は、本年11月17日(金)に同ホテルにて開催する予定である。



平成29年度北海道高等学校教頭・副校長会総会・第1回研究協議会開会式挨拶

全国高等学校教頭・副校長会事務局次長の玉井でございます。小芝一臣会長は本年4月に千葉県立京葉高等学校の校長先生にご栄進されました。代わってご挨拶申し上げます。

また、北海道高等学校教頭・副校長会は、平成27年度第54回全国大会を主管されました。大会運営委員長の家近昭彦会長、事務局長岩田努先生をはじめ、当時の役員の皆様はこの春までに校長先生にご栄進なされたと伺いました。心よりお祝い申し上げます。

さて、平成29年度北海道高等学校教頭・副校長会総会・第1回研究協議会の開催にあたり、全国高等学校教頭・副校長会よりご挨拶申し上げます。総会ならびに研究協議会の開催準備・運営にあたられている、渡邊周一会長、濱田哲也事務局長、本部役員、理事の皆様に感謝申し上げます。

また、本日公務ご多用の折、ご臨席賜りました、北海道教育委員会教育指導監小形秀雄様、札幌市教育委員会学校教育部長引地秀美様、北海道高等学校長協会会长川口淳様にお礼申し上げます。ありがとうございます。

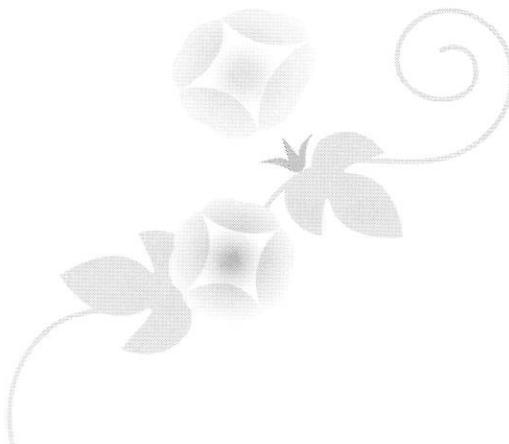
現在、長時間勤務の改善が社会全体で大きな課題となっております。過日、文部科学省より公表された平成28年度の教員勤務実態調査の速報値では、教員一人あたり小学校で週に19時間以上、中学校では24時間以上の時間外労働が行われているという実態が明らかとなりました。教頭・副校長では小学校でさらに約6時間、中学校で約20分長くなっています、小学校で約62%、中学校で約58%の教頭・副校長が「過労死ライン」を超えているという結果でございました。この結果は公立の小中学校のものであります、高等学校においても大きく変わらないものと推察いたします。今後、勤務時間の適正化の推進については、校長先生とともに教頭・副校長がリーダーシップとマネジメント力を発揮しなければならない課題となってくるのではないでしょうか。

一方、全国的に教頭・副校長の成り手がいないということが深刻な問題となっております。本年3月に開催された、平成28年度第3回東京都総合教育会議では「教育管理職の確保について」が議題となり、小池百合子都知事もこの課題の重要性を認識されております。本年4月、東京都では初めて都立高等学校において校長5名、副校長4名が再任用フルタイム勤務として職を継続することになりました。年金の支給開始年齢の延伸に伴い、今後も校長・副校長の再任用は広がっていくものと予想されます。

平成19年度第46回山口大会以降、総会における大会宣言の一つに、「主幹教諭・指導教諭等、学校組織を担う教員の指導と育成、確保、環境の整備」などについて提言して参りました。今こそ、私たちの次代を担う教頭・副校長の確保・環境整備・育成などについて真剣に取り組む時期が来ていると言えましょう。

各学校では、学習指導要領の改訂に向けた準備、特別支援教育の取組、服務事故の根絶など、多くの課題が与えられています。本総会ならびに研究協議会が北海道の教頭・副校長先生方の『研修・研鑽を深め、経験・体験を交流する場』となり、校長先生とともに日々の学校経営・学校運営にご尽力されることをご祈念申し上げます。本日は誠におめでとうございます。

(事務局次長 玉井 篤)



平成28年度地区研究協議会発表一覧

平成28年度北海道高等学校教頭・副校長会総会・第1回研究協議会

(5月18日～19日 北海道札幌市)

全体会Ⅱ

「スーパー・サイエンス・ハイスクール研究指定を契機とした学校改革の取り組み」

三條克彦 北海道滝川高等学校

分科会

第1分科会 (学校の管理運営に関する諸問題)

「『生徒の自主性と自信を育む教育の推進』～大学科併置校のキャリア教育～」

矢部幸樹 北海道紋別高等学校

第2分科会 (教育課程・学習指導に関する諸問題)

「我が国の農業科学技術系人材を育成する農業科学プログラムの研究開発～SSH事業の実践と課題～」

清澤城次 北海道岩見沢農業高等学校

第3分科会 (生徒指導、進路指導、特別活動に関する諸問題)

「効果的な進路指導を目指して～学校全体で取り組む進路指導～」

辻伸也 北海道登別青嶺高等学校

「『21世紀型能力』を意識したカリキュラムマネジメント～生徒の個性を伸ばし、正解のない社会に自律的に生きる人材の育成を目指して～」

保格秀規 北海道幌加内高等学校

平成28年度第32回東北六県高等学校教頭・副校長会研究協議会

(10月20日～21日 秋田県秋田市)

研究協議Ⅰ (管理運営)

「副校長・教頭の勤務実態と多忙感・ストレスの要因変化について」

佐藤和実 秋田県立湯沢翔北高等学校

誌上発表「教職員人事評価について」

庄司豊 山形県立酒田光陵高等学校

研究協議Ⅱ (高校教育)

「青森県立十和田西高等学校の学びと課題—受け継ぐ伝統、築く未来—」

梅村淳 青森県立十和田西高等学校

誌上発表「『チーム黎明』としての特色ある取組」

遊佐忠幸 宮城県古川黎明高等学校

研究協議Ⅲ (生徒指導)

「情報モラル違反・ネットトラブル等の事例と事案発覚・発見の経緯、並びに指導内容」

工藤清見 岩手県立紫波総合高等学校
誌上発表「平商業の生徒指導実践例と教頭の関わり方について」

佐藤知永 福島県立平商業高等学校

平成28年度関東地区高等学校教頭・副校長会研究協議会

(11月18日 埼玉県さいたま市)

研究協議

「生きる力と絆を深める教育の推進」

宮川尚巳 山梨県立農林高等学校

「言語活動の充実について～アクティブラーニングの推進に向けて～」

浅野雅裕 茨城県立大子清流高等学校
「地域連携と原動機付自転車通学の安全に向かた対策」

横田正廣 千葉県立東総工業高等学校
「グローバル教育における生きる力と絆を深める教育の推進」

岡花弘幸 神奈川県立横須賀明光高等学校

平成28年度東京都立高等学校副校長研究協議会

(10月17日 東京都文京区)

分科会

第1分科会 (管理運営研究)

「障害者差別解消法の施行に向けた各学校の取組について」

山本勇 東京都立八王子東高等学校

「『人間と社会』における体験活動の実施について」

近藤安彦 東京都立蔵前工業高等学校

第2分科会 (高校教育研究)

「新教科『人間と社会』について」

穂積振司 東京都立江戸川高等学校

「主権者教育に関する各校の取組についての研究」

関山勝之 東京都立東村山高等学校

第3分科会 (生徒指導研究)

「都立学校における授業外の学習時間の確保あるいは増加のための取組」

松井章朗 東京都立雪谷高等学校

「SNS利用に対する各校の取組について」

平柳伸幸 東京都立農芸高等学校

第4分科会 (定時制・通信制教育)

「ユースソーシャルワーカーとの連携について」

佐藤俊彦 東京都立工芸高等学校

平成28年度北信越地区高等学校教頭・副校長会連絡協議会

(11月10日～11日 富山県富山市)

「自ら学ぶ力を育成するために～富山県における実践と成果～」

村上竜哉 富山県立八尾高等学校

横川元俊 富山県立呉羽高等学校

杉原栄 富山県立雄峰高等学校

「SGHおよび探求科学科の取り組み」

大浦栄治 富山県立高岡高等学校

平成28年度東海地区高等学校教頭・副校長会連絡協議会総会及び研究協議会

(10月21日 岐阜県岐阜市)

研究協議

「教頭の職務をいかに遂行するか～研究部会の取り組み～」

小山信幸 愛知県立吉良高等学校

伊豫田祥子 愛知県立知立東高等学校

手嶋修一 愛知県立安城南高等学校

川澄誠 愛知県立西尾東高等学校

「職員室・研究室の使用状況と学校経営への影響」

齊藤篤 静岡県立土肥高等学校

「生徒の登下校の指導と安全管理」

江崎徹 三重県立特別支援学校玉城わかば学園

「一人一人の生徒と向き合う教育を目指して」

棚橋毅 岐阜県立不破高等学校

平成28年度全国高等学校教頭・副校長会近畿地区連絡協議会

(11月11日 和歌山県和歌山市)

研究協議

「エンパワメントスクールの取り組み」

吉田徹夫 大阪府立成城高等学校

「本校の『学力向上・評価研究』の取組について～アクティブラーニングに向けての授業改革～」

片岡幸一 滋賀県立甲西高等学校

「地域と企業を結ぶ『ものづくり人材』の育成～京都府立南丹高等学校 総合学科テクニカル工学系列～」

大島浩樹 京都府立南丹高等学校

「高校におけるインクルーシブ教育システム構築に向けて～個別の支援・指導計画の作成のために～」

八十川洋一 兵庫県立上郡高等学校

「『学校の組織力の向上』に関するアンケートからみえてきたもの」

藤岡宏朗 奈良県立西の京高等学校

紙上発表「伝統校の再生に教諭、教頭として関

わって～いかにして失望のスパイラルから抜け出すか～」

戸川しをり 和歌山県立耐久高等学校

平成28年度第31回四国高等学校教頭・副校長会研究協議会

(10月20日～21日 愛媛県松山市)

研究発表及び研究協議

「多様な生徒を育む総合制高校を目指して」

秋山文孝 香川県立高松南高等学校

「『地域創生』人材育成プロジェクト—SPH研究指定校として—」

守田裕史 徳島県立徳島商業高等学校

「心を育む教育の取り組み―中山間地域からの挑戦―」

山本由美子 高知県立橋原高等学校

「高校の魅力化と地域の連携を図る教育の推進一本校教育の現状と課題―」

丸尾秀樹 愛媛県立松山南高等学校砥部分校
「ある新設高校の40年」

柴田節 香川県立高松西高等学校

「地域とともににある総合学科の取組」

土井正史 徳島県立新野高等学校

「併設型中高一貫教育校での教育実践一本校の存在意義を高めるために―」

田邊法人 高知県立中村高等学校

「グローバル社会を生き抜くための確かな学力の向上と豊かな心の育成を図る教育の推進一本校教育の現状と課題―」

重松聖二 愛媛県立宇和島東高等学校

平成28年度第34回九州各県高等学校教頭・副校長研修会佐賀大会

(10月6日～7日 佐賀県佐賀市)

研究・実践発表及び質疑応答

「時代の変化に対応した農業高校の取組～農業経営者育成高等学校としての寮教育の在り方について～」

萩原浩二 宮崎県立高鍋農業高等学校

「ARA・SHIの学校改革プロジェクト～子どもと向き合う時間の質と向上を図るために～」

堀川丞美 熊本県立熊本支援学校

「再起動！串高～地元と共に未来をつくる～」

小牧剛 鹿児島県立串木野高等学校

「佐賀県におけるICT利活用教育の実践について」

坂本明弘 佐賀県立神埼高等学校

**平成28年度
各都道府県市研究論文等掲載一覧**

北海道『会誌』、平成29年2月

第1分科会

「『生徒の自主性と自信を育む教育の推進』～大学科併置校のキャリア教育～」

第2分科会

「我が国の農業科学技術系人材を育成する農業科学教育プログラムの研究開発～SSH事業の実践と課題～」

第3分科会

「効果的な進路指導を目指して～学校全体で取り組む進路指導～」

「『21世紀型能力』を意識したカリキュラムマネジメント～生徒の個性を伸ばし、正解のない社会に自律的に生きる人材の育成を目指して～」

「学校組織を有効にマネジメントするために」

青森県『紀要 第47号』、平成29年2月

管理運営

「高等学校と特別支援学校の交流及び共同学習について」

高校教育

「『対話』から考えたアクティブ・ラーニングの取組～きわめて個人的経験からのアプローチ～」

生徒指導

「キャリア教育と生徒指導」

岩手県『会誌 第53号』、平成29年2月

「各校における情報モラル違反・ネットトラブル等の事例と事案発覚・発見の経緯、並びに指導内容」

秋田県『会報 第39号』、平成29年3月

管理運営調査研究委員会

「副校長・教頭の勤務実態と多忙感・ストレスの要因変化について」

教育課程調査研究委員会

「教育課程実施上特別な配慮を必要とする生徒への対応について」

生徒指導調査研究委員会

「道路交通法の改正に伴う自転車の安全指導の進め方について」

山形県『会報 第52号』、平成29年1月

管理運営部会

「教職員人事評価について」

高校教育部会

「高等学校におけるアクティブ・ラーニングについて一校種比較を切り口として～」

生徒指導部会

「高校生のスマートフォン利用の現状と課題について」

福島県『総会並びに研究協議会記録』

第1分科会

「新しい人事評価に対する取り組み～福島県高等学校教頭会アンケート結果より～」

第2分科会

「総合的な学習の時間に関する各校の取組について」

第3分科会

「自己指導力を育む生徒指導の在り方～平商業の生徒指導実践例と教頭の関わり方について～」

第4分科会

「一人一人の『学び』の保障とセンター的機能のあり方」

茨城県『会報 第44号』、平成29年3月

制度・組織委員会

「『学校外の組織との連携』～地域とともにあら学校づくりに向けて～」

財務・厚生委員会

「『学校における危機管理』～その現状と課題～」

管理・運営委員会

「学校管理運営上の必要書類等の記入例について（データ化）」

進路・学習指導委員会

「アクティブ・ラーニングの組織的推進に向けて～カリキュラム・マネジメントの視点から～」

生徒指導・特別活動委員会

「『学校事故の実態』～未然防止及び事後の適切な対応の視点から～」

特別支援教育委員会

「新しい教員評価について～第一次評価者としての役割と適切な実施方法等の在り方～」

「学校コンプライアンスの確保について～一人一人の心に届く研修の在り方に関する一考察～」

「特別支援学校におけるICTの活用について～
『特別支援教育に役立つアプリカタログ』と
『ICT関連講師情報』の提供について～」
「服務と管理について～『休暇』『服務』等に
関する根拠法規等の確認と事例研究～」

栃木県『研究紀要』、平成29年3月

管理運営部門

「『栃木県教育振興基本計画2020』の基本目標の達成を目指した校務運営について」

～「学びの基盤をつくる」中高一貫教育を生かして～

～夢を創り、夢をかたちに～

～「育ちあえる絆をつくる」創立100周年を契機として～

～「真のリーダーの育成」を目指して～

高校教育部門

「アクティブ・ラーニングを核とした授業力向上の取り組み」

生徒指導部門

「学校力と連携力」

～地域と連携した特色ある教育活動の推進を目指して～

～環境の変化と学校力・連携力の向上～

～本校の連携の取り組みを中心に～

～学校の使命を果たすための真の連携を目指して～

～地域の教育力を活用した連携の方策～

～本校における地域連携の取り組み～

～地域連携事業を通して～

特別支援教育研究部門

「本県特別支援学校の現状」

埼玉県『会誌』平成29年1月

高校教育部会

「確かな学力の育成を目指す高等学校におけるアクティブラーニングの取組」

定通制通教育部会

「定時制通信制高校教育の充実に向けて アンケート調査の結果から」

千葉県『秋季研究協議会』、平成28年11月

学習指導部会

「アクティブラーニング推進のための校内研修の在り方」

「（障害者差別解消法に基づく）合理的配慮が必要な生徒の教科・科目における評価の在り

方」

管理運営部会

「より良い学校運営を目指して 災害時の教職員の服務と運営」

生徒指導部会

「ネットトラブルの発生のメカニズム及び今後の対応について」

学校運営部会

「連携事業の現状について」

定通運営部会

「定時制・通信制の学校における学習活動の取組～教育の意識調査と取組について～」

山梨県『会誌』平成29年4月

地区別発表

「上野原高校における防災教育」

「甲府城西高等学校におけるキャリア教育について」

「国際バカロレア導入に向けた取組」

「韮崎高校『ベクトルを一つに～地域に貢献するハブスクール～』」

東京都『会報 第44号』、平成29年3月

分科会

第1分科会（管理運営研究）

「障害者差別解消法の施行に向けた各学校の取組について」

「『人間と社会』における体験活動の実施について」

第2分科会（高校教育研究）

「新教科『人間と社会』について」

「主権者教育に関する各校の取組についての研究」

第3分科会（生徒指導研究）

「都立学校における授業外の学習時間の確保あるいは増加のための取組」

「SNS利用に対する各校の取組について」

第4分科会（定時制・通信制教育）

「ユースソーシャルワーカーとの連携について」

富山県『課題研究』、平成28年12月

「自ら学ぶ力を育成するために」

静岡県『研究発表資料集』、平成28年11月

管理運営

「5年後・10年後の学校運営の在り方を考える

～校務分掌における再任用教員の現状の調査と今後の課題～」

「一斉メール配信のアンケート機能を応用した安否確認システムの構築」

高校教育

「個別的な支援を必要とする生徒への対応」

「今、求められる高校生への政治的教養の教育」

生徒指導

「生徒のスマートフォン等利用の現状と指導上の課題分析」

「教育相談の課題について」

定時通信

「高校教育の質の確保と基礎学力定着に向けた定時制の取組について」

特別支援

「浜松視覚特別支援学校の基礎的環境整備と合理的配慮」

愛知県『研究の記録』、平成29年1月

研究部会

「教頭の職務について—新任教頭研修会の運営と『休暇等一覧表』の修整と追加—」

第2専門委員会

「『活力ある教頭職を目指して』—意欲的に取り組める教頭職にするための方策を求めて—」

定時制通信制教頭・副校長研究部会

「定時制通信制高校の教育相談活動に関するアンケートの分析と聞き取り調査報告—スクールソーシャルワーカーの導入と活用—」

岐阜県『会誌 第39号』、平成29年3月

第1分科会

「明るく元気な学校を目指して」

「効率的な校内組織の研究～クラス減による小規模化への対応～」

第2分科会（教育課程）

「多様なニーズに対応し、社会自立の実現を目指す当校の教育」

「『よき地域社会人の育成を目指して』～基礎学力の定着と授業改善の推進～」

第3分科会（生徒指導）

「地元地域に支えられた生徒育成」

「【あじみ】のできる学校をめざして」

三重県『研究集録 第22号』、平成29年1月

管理運営研究委員会

「『授業力向上』への管理面からの取組～各学

校への調査結果、実践事例を踏まえて～」

学校教育研究委員会

「学校での『主権者教育』の取り組み～教頭として主権者教育をどのように進めていくか～」

生徒指導研究委員会

「児童生徒の登下校の指導と安全管理」

学校経営品質研究委員会

「学校改善活動における『学校マネジメントシート』の活用」

滋賀県『研修集録』、平成29年2月

定時制・通信制教育部会

「滋賀県立彦根東高等学校定時制閉課程における最終年度の取組から」

京都府『研究協議録』、平成29年3月

管理運営部会

「副校長と事務部との連携について～学校の力を高めるために～」

学習指導部会

「質の高い学力の育成～アクティブ・ラーニングの実践に向けて～」

生徒指導部会

「社会の変化・多様化に対応した生徒指導の在り方」

進路指導部会

「進路指導を支える学校体制の在り方～高大接続テストを視野に～」

人権教育部会

「あらゆる教育活動を通した人権教育の進め方について～人材育成の観点から次代につなげる人権教育の具体的方策の徹底～」

特別支援教育部会

「『連携する』特別支援学校を推進するための副校長の役割～京都府の特別支援教育の課題や方向性を見通した、特別支援学校の取組の推進～」

定時制・通信制教育部会

「社会の変化に対応した定時制・通信制教育の在り方について～各校の特色ある学校向上に向けた取組～」

大阪府『第2回総会資料』、平成29年2月

第1分科会

「複数学科のある学校の管理運営について」

「開校から10年～新校設立から現在に至るまで～」

第2分科会

「旭高校の国際交流の取り組みについて」
 「日根野高校の教育活動と課題」

第3分科会

「三島高校、夢から目標への挑戦」
 「生徒の学力と将来に向き合う取り組み」

第4分科会

「生徒指導を通して見る学校の変遷と今後の課題について～普通科から総合学科へ生徒指導面を中心に振り返る～」

「エンパワメントスクールの取り組み」

第5分科会

「本校の自立支援コースの取り組みと今後の課題」
 「新設支援学校の取組について」

第6分科会

「協同的な学び」
 「ICT化による学力向上への取り組み」

奈良県『研修報告書』、平成29年1月

「人材育成による学校の活性化」

岡山県『部会報 第53号』、平成29年2月

「中山間地における高校の役割—持続可能な地域の担い手の育成—」

山口県『会誌 第33号』、平成29年1月

学校運営

「魅力ある学校づくりのための取組～中・高一貫教育の導入と学科改編～」

学習指導

「学校教育目標を踏まえた学習指導の取組～本分校の有機的な連携とマネジメントサイクルの構築をめざして～」

生徒指導

「特別支援学校における生徒指導の取組～校内体制の見直しと関係機関の連携を通して～」

佐賀県『会誌 第34号』、平成29年2月

第1部会

「学校活性化の取り組みについて」

第2部会

「魅力ある学校づくりに向けた取り組みについて」

第3部会

「各校における生徒指導の取り組み」

第4部会

「特別支援学校におけるICT利活用の取り組み」

第5部会

「多様なニーズに応える定通教育」

第6部会

「中高接続について」

大分県『研究集録』、平成29年3月

第1部会

「学校のベテラン教職員の持つノウハウの継承と若手教職員の育成に関する考察」

第2部会

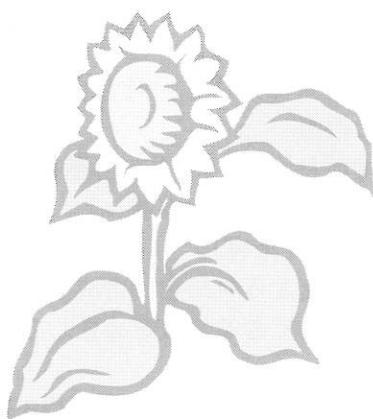
「大分県高等学校におけるグローバル人材育成の取り組み」

第3部会

「再編整備計画実施後の各高校における生徒の通学手段の状況と諸課題」

第4部会

「大分県特別支援学校における学校防災体制・学校防災教育推進について～熊本県特別支援学校の対応に学ぶ～」



事務局だより

◎次年度に向けての役員会ほか

3月27日、本部事務局にて平成29年度全国役員候補者〈会長、副会長兼総務部長、研究部長、会計、研究委員長〉及び全国役員を支援する東京都公立高等学校副校長協会（全日制部会）役員候補者〈協会長兼全国総務部長、部会長兼全国研究部長、副部会長兼全国常任理事、会計、会計監査、研究委員長など〉を推薦するための本部役員会を開催した。今後、東京都の総務部会、幹事会、総会等をへて、正式に選出する運びである。一方、全国役員は、第1回総務部会、第1回全国理事研究協議会を経て総会にて正式に決定する。なお、今年度の全国研究部研究委員長は、管理運営研究委員長を山梨県、高校研究委員長を栃木県、生徒指導研究委員長を東京都が担当する。

また、6月と11月の理事研究協議会においては、例年通り文部科学省の担当者から講話をいただく予定である。なお、平成28年度の事業報告、決算報告、監査報告、平成29年度の事業計画、予算などを含めて、5月12日の役員会、同22日の第1回総務部会、6月19日の第1回全国理事研究協議会の順に承認を受け、総会で決定する。ちなみに、本年度の総務部会には、全国大会運営主管県として岡山県、全国大会準備主管県として宮城県が参画する。

◎文書配達先報告、総務部員報告

本年度の文書配達先報告を4月15日に締め切った。各県事務局等への配達を希望するのは、北海道、栃木県、東京都、富山県、愛知県、滋賀県、大阪府、和歌山県、鳥取県、広島県、大分県、鹿児島県、沖縄県である。

同様に、本年度の総務部を構成する各県報告を4月22日に締め切った。兼務を含めて栃木県2名、埼玉県2名、千葉県2名、神奈川県2名、東京都7名、山梨県1名、岡山県3名、宮城県3名のほか、事務局が参加する。

◎全国監査・役員会

全国監査・役員会を、5月12日、お茶の水事務局にて開催し、新旧役員等12名が出席した。会計監査後、役員会を行い、平成28年度事業報告及び決算報告、平成29年度事業計画（案）及び予算（案）、理事研究協議会での検討事項、特別調査、全国大会宣言案ほかについての進行と確認を行った。

◎表彰候補者、全国理事推薦、会員構成報告

本年度の表彰候補者、全国理事推薦、会員構成報告を5月15日に締め切った。未着の県市が若干あるため、確定ではないが表彰候補者は70名程度の見込である。6月の第1回全国理事研究協議会で確認する予定である。

◎平成29年度北海道高等学校教頭・副校長会総会・第1回研究協議会

平成29年度北海道高等学校教頭・副校長会総会・第1回研究協議会が5月17日から18日まで、北海道札幌市のホテルライフォート札幌にて開催された。本部事務局から玉井篤事務局次長が出席した。

1日目は、午前中に北海道の理事研究協議会、運営担当者等研究協議会が行われ、午後に開会式、総会、全体会が行われた。開会式では、渡邊周一会長代行の挨拶、北海道教育委員会教育長、札幌市教育委員会教育長、北海道高等学校長協会長の後、玉井事務局次長が挨拶を述べた。来賓・助言者の紹介、祝電・祝文披露があり、総会では、渡邊会長、田邊禎明、鈴木浩、大橋一夫、野元基、久保木崇副会長、濱田哲也事務局長等が正式に選任された。全体会では、小形秀雄教育指導監による「教頭・副校長に望むこと」、川口淳北海道高等学校長協会長による「やりがい・働きがいを持つには」の講話が行われ、また、「教頭・副校長の立ち位置～学校経営者の一員として～」をテーマに鈴木浩札幌月寒高等学校副校長を提言者とする研究協議があり、事務連絡後、教育委員会、校長協会を交えての教育懇談会が開かれた。

2日目は、分科会があり、第1分科会（学校の管理運営）「カリキュラム・マネジメント～研

究開発学校の指定を受けた連携型中高一貫教育校の取組～」山内章裕鹿追高等学校教頭、第 2 分科会（教育課程・学習指導）「札幌旭丘高校の『進学重視型単位制』について、現状からの検証」川瀬雅之札幌旭丘高等学校副校長、第 3 分科会（生徒指導、進路指導、特別活動）「コミュニケーション能力を伸ばす取組～支援が必要な生徒への対応～」浅井邦昭上磯高等学校教頭、「大通高校の支援事業を通して今後の定時制課程高校の課題を考察する」熊谷修司石狩市立札幌大通高等学校教頭があり、質疑・応答後、北海道教育委員会、校長協会からの指導・助言があった。その後、閉会式があり、全日程を終了した。

◎本年度の地区研究協議会等の予定

北海道第 2 回	11 月 17 日	札幌市
東北六県	10 月 19 日～20 日	山形市
関東地区	11 月 17 日	横浜市
東京都	10 月 17 日	文京区
北信越	11 月 16 日～17 日	福井市
東海地区	10 月 16 日	津市
近畿地区	10 月 27 日	大阪市
中国地区	7 月 27 日～28 日	倉敷市
四国地区	10 月 19 日～20 日	高松市
九州各県	10 月 5 日～6 日	長崎市

◎平成 29 年度第 1 回総務部会

5 月 22 日、平成 29 年度第 1 回総務部会をナーベルお茶の水（文京区）にて開催した。新旧役員等 23 名が出席した。会長挨拶、総務部会役員及組織の紹介、平成 28 年度事業報告及び決算報告、地区研究協議会及び全国理事研究協議会（第 1 回）の運営確認、会長、会計、会計監査の推薦（本総務部会で推薦、副会長は 6 月 19 日の地区研究協議会で常任理事とあわせて推薦）、平成 29 年度事業計画及び予算（案）、大会宣言等各種協議事項、各地区研究協議会との連携ほかの確認、全国大会運営委員会報告（岡山県）、全国大会準備委員会報告（宮城県）などを行った。終了後、教育情報交換会を行った。

◎平成 29 年度第 1 回全国理事研究協議会

平成 29 年度第 1 回地区研究協議会、全国理

事研究協議会を 6 月 19 日、アルカディア市ヶ谷で開催した。全国から 95 名の理事が出席した。文部科学省高等教育局主任大学改革官の濱口太久未氏より、「高大接続改革の動向について」という演題で講話をいただいた。

◎平成 29 年度第 56 回総会及び研究協議大会

本年度の第 56 回総会・研究協議大会は、岡山県高等学校教頭・副校長会が主管し、7 月 26 日から 28 日にかけて岡山県倉敷市の倉敷市民会館、倉敷公民館などにて開催する。

統一主題は、「心豊かに、たくましく、未来を拓く人材の育成を目指して～よりよい社会づくりに参画する力を育てる高校教育の推進～」である。

第 2 回理事研究協議会での講演者には、社会福祉法人岡山県視覚障害者協会理事の竹内昌彦氏、総会・研究協議大会での講演者には、大原美術館名誉理事長の大原謙一郎氏を予定している。

また、分科会での口頭発表には、第 1 分科会（管理運営）を北海道、和歌山県、岡山県、沖縄県、第 2 分科会（高校教育）を山形県、東京都、長野県、岡山県、第 3 分科会（生徒指導）を栃木県、三重県、岡山県、香川県が各自担当する。目下、準備委員会から運営委員会に移行して、秋葉直之大会運営委員長のもと、鋭意、準備に取り組まれている。奮って、各県市からの参加をお願いする。

（事務局長 針馬 利行）

会 報 第 97 号

発行日 平成 29 年 6 月 20 日

発行者 全国高等学校教頭・副校長会
(非売品)

編集人 針馬利行 発行人 小芝一臣
〒 113-0034 東京都文京区湯島 1-5-28
ナーベルお茶の水 2 階

電話 03-5840-6104

FAX 03-5840-6108

E-mail:info@zenko-kyotou.jp

印刷所 株式会社リヨーワ印刷
電話 03-3378-4180